

主をほめたたえよ

詩篇148篇

地の王たち、すべての民、君たち、地のすべてのつかさよ、若い男子、若い女子、老いた人と幼い者よ、彼らをして主のみ名をほめたたえさせよ。(11〜13)

「主をほめたたえよ」という勧めの言葉が繰り返されています。6節までの前半部分は天使をはじめ太陽や月など天上のものに対して勧めがなされ、7節からの後半部分においては地上のものに対して主をほめたたえるように勧めがなされています。

その最後に登場するのが、神の創造の冠とされる人間に対しての勧めです。老若男女を問わず、あるいはどのような地位にある者でも、神に造られた全ての人間が主をほめたたえるようにと歌われています。ウエストミンスター大教理問答はその最初に「人間のおもな、最高の目的は、何ですか。」と問い、「人生のおもな、最高の目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことです」と答えています。わたしたちが神によつて造られ、今も生かされているのは主を賛美するためです。他の被造物にまさつて、人間はより高らかに主をほめたたえることができるはずです。なぜならわたしたちは、主なる神が創造主であるだけでなく、わたしたちを罪みから救い出してくださいと贖い主でもあることを知っているからです。主がいかなるお方であるかを深く知れば知るほど、賛美の力はいよいよ大きくなるのです。わたしたちを罪から救うために御子が人となつて誕生されたクリスマスを前に、その大きな恵みを心に深く思い巡らし、高らかに主を賛美しようではありませんか。